

自治会活動
活性化の輪を
広げよう！

**魅力ある
自治会づくり
支援事業補助金
活用事例集**

令和7年度

みんなでまちづくり課
宇都宮市自治会連合会

この事例集について

この事例集は、「令和7年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、自治会自らが創意工夫のもと取り組んだ事例をとりまとめたものです。これから取組を始めようとする自治会へのモデルとしていただけるよう、活動分野別に事例をご紹介します。

※「令和7年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」の概要は以下のとおりです。

令和7年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金

1 目的

「自治会の魅力を高め、自治会への関心向上と参加意識の醸成を図ること」や「自治会の重要性の理解を図り、加入を勧めること」に「取り組みたい」と考える自治会を支援し、自治会の活性化を図ることを目的とする。

2 補助金概要

(1) 補助交付先

宇都宮市自治会連合会

(2) 事業実施主体

地区連合自治会（単位自治会、NPO、企業等との連携により実施）

(3) 対象となる事業

下記の目的を達成するため、自治会が行う自治会加入促進・活性化に資する以下の取組で継続性のあるものを対象とする。なお、「宮PASS」、「まちづくり活動応援事業」の活用を検討すること

【加入促進】

- ・ 中高層マンションや大規模分譲住宅への加入促進
- ・ 若者や女性と連携した自治会活動
- ・ 学校や事業者と連携した自治会活動 など

【組織運営強化・退会防止】

- ・ 自治会事務の負担軽減を図るアウトソーシング事業
- ・ 地域連携による福祉の質向上
- ・ 地域防災力の向上 など

(4) 補助対象数及び補助限度額

補助対象数：20地区

補助限度額：1地区あたり225千円（市200千円、宇自連25千円）

(5) 補助対象経費

経費	対象とする経費（例）
報 償 費	講師等謝金など
消 耗 品 費	事務用品，コピー用紙などの消耗品など
印 刷 製 本 費	チラシ・パンフレット印刷，会議資料印刷など
通 信 運 搬 費	郵便料金など
賃 借 料	講演会，イベント等の開催会場の使用料や機器等の 借上費など
備 品 購 入 費	事業に必要な事務用品，資器材の購入費など （１０万円未満） ※継続的な活動につなげる備品購入可

目 次

<自治会加入促進>

- ・ 祭りを通じた「つながる ひろがる 自治会の輪」【平石地区】 5
- ・ 「自治会カムバック」事業【平石地区】 7
- ・ 若年層をターゲットとした自治会加入促進【清原地区】 9
- ・ 自治会加入促進事業【城山地区】 12
- ・ 自治会を知る・魅力を発信する事業【国本地区】 14
- ・ かわち自治会応援隊による集団退会のあった自治会の再構築と新タイプ自治会づくり
立ち上げ事業【河内地区】 16
- ・ 自治会の継続的な組織運営のための加入促進【宮の原地区】 18
- ・ 地区創立 50 周年を契機とした自治会活動の周知・加入促進【陽東地区】 20
- ・ 「ボッチャと輪投げで健康アップ・交流アップのダブルアップ！」事業【今泉地区】 22
- ・ あいさつ・声掛け運動によるコミュニケーションづくり【陽南地区】 24
- ・ 自治会加入促進・新規情報提供事業【細谷・上戸祭地区】 26
- ・ 笑いで心豊かに楽しめる地域の輪づくり事業【宝木地区】 28

<地域防災力の向上>

- ・ 地域防災力向上のための自治会活動【雀宮地区】 31
- ・ 地域防災力の向上に向けた体制整備【上河内地区】 34
- ・ みんなで歩いて「安全安心お楽しみ MAP」を作る事業【五代若松原地区】 36

自治会加入促進

平石地区（平石地区自治会連合会）

祭りを通じた「つながる ひろがる 自治会の輪」

地域の課題と対応の方向性

- 地域コミュニティの希薄化が進んでいることから、地域住民が参加しやすい、人的交流・共同作業等の機会を創出する必要がある。
 - ⇒ 地域住民が気軽に参加し、幅広い交流を深めることのできる「祭り」を通じて、地域住民の自助・共助の意識向上を図り、自治会への加入促進につなげる。

事業内容

- ・ 「ふるさと宮まつり（梵天）」参加募集の周知啓発
 - ⇒ ポスター，チラシの作成
- ・ 「梵天づくり」
 - ⇒ 地域参加者による「梵天」の飾りつけ，企画等の共同作業を通じて，人的交流の活性化を図る。
- ・ 「ふるさと宮まつり」への出展
 - ⇒ 制作した「梵天」をふるさと宮まつりで披露し，担ぐ楽しさ，祭りへの参加による充実感・達成感を醸成し，自治会の輪をつなぐ・ひろげる機会を創出する。

全員で飾りつけ



飾りつけが終わった梵天で、皆で担ぐ練習



梵天出展



ここがポイント！

- ・ 「梵天づくり」や「ふるさと宮まつりへの梵天出展」は、老若男女問わず地域住民が地域活動の楽しさや充実感、達成感を享受できる機会であることから、自助・共助の更なる意識向上や助け合いの精神の醸成、自治会活動への参加や地域を支える新たな人材の発掘、自治会への加入促進が期待できる。

事業実施による成果・効果

- ・ 地域活動・まちづくりの根幹となる地域住民の幅広い交流促進を図り、まちづくりへの機運がさらに高まった。
- ・ 昔から地元で根付き、親しまれてきた「平石梵天」をその製作からパレード参加まで、地域の子どもから高齢者を広く募りながら、力を合わせて一丸となって取り組んだことにより、地域住民のさらなる一体感を醸成することができた。
- ・ 併せて、地元への愛着や親しみ、自治会活動の楽しさなどを地域住民が改めて感じる契機となり、平石地区連合自治会の取組に対する評価が高まった。
- ・ また、本事業への協賛地元企業等も積極的にまつりに参画したことにより、地元企業への地域住民の理解・関心が深まるとともに、地元を構成する一員としての連帯感も生まれた。
- ・ 梵天づくり(飾りつけ、担ぎの練習) 参加者 52人(自治会未加入者 5人)
- ・ ふるさと宮まつり(梵天出展) 参加者 62人(自治会未加入者10人)

次年度以降に向けて

- ・ 地域住民が参加しやすい「まつり」を契機とした取組は非常に効果が高いことから、地域住民の拠り所となる催事等の機会を創出し、地域活動の参加意欲の向上や、やりがい・満足感を醸成するなど、さらなる自治会加入促進に取り組んでいく。

問い合わせ先

平石地区市民センター

電話 028-660-1964

平石地区（平石地区自治会連合会）

「自治会カムバック」事業

地域の課題と対応の方向性

- 地域活動・まちづくりの根幹となる地域住民の担い手不足や高齢化などに伴い、自治会加入世帯の減少が見られる。
⇒ 自治会未加入者・退会者に対して加入促進活動を実施し、地域住民の一体感やまちづくりへの機運醸成・創出につなげる。

事業内容

- ・ 地域の人口、世帯数などの動態調査・分析の実施
⇒ 市オープンデータ、地域所有情報等を利活用し、地域の人口動態や趨勢を分析するなど、自治会加入促進に資する対応方策検討の基礎データを整理し、現状や課題を抽出
- ・ 自治会加入促進に向けたポスター、のぼり旗等の活用による周知啓発
⇒ 自治会の加入促進、退会防止に寄与するポスター、のぼり旗等を製作し、単位自治会や地区内の企業・店舗等に働きかけ、積極的に周知・啓発を実施
- ・ 自治会未加入者・退会者に対するアンケート調査等の実施、結果の取りまとめ
⇒ 自治会未加入者・退会者に対してアンケート調査やヒアリング等を実施し、未加入者や退会者の声を広く聴き取るとともに、未加入・退会の原因や分析を行い、報告書を取りまとめた。



のぼり旗



ポスター



アンケート結果冊子

ここがポイント！

地域自身が自治会未加入者・退会者の率直な理由・意見を聞き出し、把握することにより、将来的な自治会の在り方や運営などについて、理解を深めた上で行動することが期待できるとともに、新たな加入者の増加に資する効果的な施策・対応も期待できる。

事業実施による成果・効果

- ・ 最も基本的な地域の人口動態等を収集・整理したことにより、将来的な各種取組の基礎データを把握することができた。
- ・ 作成したポスター、のぼり旗等により積極的に周知啓発活動を行った結果、地区内の多くの企業や店舗等に協力・賛同していただいた。（30か所以上）
- ・ 自治会未加入者・退会者に対するアンケート調査（ポスティング、Web）等により、地域活動やまちづくりの根幹となる地域住民の率直な意見や要望のほか、指摘事項などを含め、幅広い声を把握することができた。また、回答結果の分析により、今後自治会に求められる役割や取り組むべき課題、活動の方向性を把握することができ、次年度以降の活動を検討していく上で重要なデータを把握することができた。

次年度以降に向けて

高齢化による自治会役員の担い手不足、退会者の増加などの現状を踏まえると、すぐに効果的な対応・取組を行うことが難しい側面もあるが、今回の事業による各種結果を基に、時代のニーズに合わせた透明性の高い活動を実施するとともに、多様化する価値観に対して柔軟でバランスの良い取組を展開・継続していけるよう、日々工夫を重ねながら取り組んでいく。

問い合わせ先

平石地区市民センター

電話 028-660-1964

清原地区（清原地区自治会連合会）

若年層をターゲットとした自治会加入促進事業

地域の課題と対応の方向性

- 清原地区の自治会加入率は減少傾向にあり、「若年層の自治会への関心の薄れ」や「高齢者の自治会離れ」などが懸念されている。
⇒ 自治会未加入者も対象にしたイベントなどの事例発表を参考に、時代に寄り添った自治会の形に向けて、これからの地域づくりを考えていく必要がある。

事業内容

1 自治会加入促進の取り組み

⇒ 清原地区自治会連合会で独自に作成した「自治会加入促進チラシ」を活用し、清原地区で開催される3つの地域イベントにおいて、自治会の役割・必要性を紹介するとともに、自治会員の優待制度「宮PASS」の案内など、子育て世代やファミリー層を中心に自治会加入促進PR活動を行った。

- ・ 9/27 きよとこ 清原マルシェ
- ・ 10/12 きよはらスポレクフェスティバル
- ・ 11/ 2 清原地区農業祭・文化祭



※「宮PASS」提示者へは、各イベントの模擬店で使用できる「おもてなし券（割引券）を交付（利用者 計 657 人）

※ 今年度についても、「宮PASS」提供施設への登録案内を行い、新たに5施設の登録を行った。

・ 新築集合住宅や若年層向けの新築マンションの入居者などへ、自治会加入促進チラシのポスティング等、自治会加入案内を実施。また建築中や入居前については、住宅メーカーへ自治会加入に向けた説明のお願いを依頼した。

・ 場 所：ゆいの杜5丁目地内

・ 日時・戸数：6月 12 戸，8月 10 戸，11 月 10 戸

2 清原地区「自治会シンポジウム」の開催

⇒ 誰もが身近な地域で共に支え合い、夢や希望をもって安全・安心に暮らすことができるまちづくりを実現するため、地域内各種団体と連携した自治会活動が展開できるよう地域の皆さんと考えることを目的に開催

- ・日 時：令和7年12月7日（土）14：00～16：00
- ・場 所：清原工業団地総合管理協会（大会議室）
- ・講 師：宇都宮大学地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
石井 大一郎 教授
- ・内 容：①基調講演「これからの地域づくりを考えよう」



②事例発表 復活した自治会行事「夏祭り」（清原台6丁目自治会）



昔の地域のまとまりについて（清原地区自治会連合会）



③意見交換：「地域をみんなでまとめていくには」（グループディスカッション）



- ・参加団体：清原地区自治会連合会ほか 4団体（43人）
- ・清原地区消防団の若手参加者を各グループに配置し、皆で意見を出し合い、話し合いを進めることができた。

ここがポイント！

- ・自治会シンポジウムにおいて、自治会長をはじめ、清原地区消防団等の地域団体が参加し、他市でうまくいっている取り組みをヒントに、今後の自治会活動について意見交換を行った。
- ・加入者と未加入者に差をつけることで、皆が楽しめる工夫をしている。

事業実施による成果・効果

- ・他市の成功事例の取り組みの実施までの流れ，進め方を知ることができ，地域内の各種団体が参加する事で，課題に取り組むための進め方に関する認識を関係者間で共有することができた。

次年度以降に向けて

- ・多様な関わり方を大切にしながら，自治会加入促進，脱会防止への取り組みを継続していく。

問い合わせ先

清原地区市民センター

電話 ０２８－６６７－５６９６

城山地区（城山地区連合自治会）

自治会加入促進事業

地域の課題と対応の方向性

- 城山地区において、自治会加入世帯が減少していることから、「自治会条例」の制定を契機として、改めて加入促進や退会防止への取組を強化する必要がある。
⇒ 自治会活動のPRや加入メリットの充実を図りながら、転入・転居者等を中心に加入への働きかけを行う。
- 自治会長の約半数が1年で交代するため、新任自治会長であっても、円滑に自治会運営ができるように支援する必要がある。
⇒ 自治会長の役割や業務等について理解促進を図るとともに、交代する際には、確実に業務の引継ぎを行ってもらう。

事業内容

1 「自治会条例」に関する勉強会の開催【意識醸成】

- ・ 内容：自治会の現状・課題、条例の概要、自治会への支援策 など
- ※ みんなでまちづくり課職員に講師を依頼

2 「自治会加入案内パンフレット」の作成【加入促進】

- ・ 自治会の活動内容や加入のメリット、よくある質問のほか、自治会マップや避難所などを掲載
- ・ 自治会長や班長に配布し、加入案内の際の説明資料として、活用を依頼



3 「自治会長ハンドブック」の作成【活動支援】

- ・ 連合自治会の年間スケジュールと業務内容、自治会への支援制度などを掲載
- ・ 自治会長に配布し、日頃の業務や自治会長の引継ぎ資料として活用を依頼

4 「宮PASS」サービス提供施設の拡充【加入メリットの充実】

- ・ 個別訪問により参加協力を依頼
→ 新たに9店舗を追加
- ・ 「体育祭」や「文化祭・農業祭」で、「宮PASSスタンプラリー」をPR
- ・ 宮PASSへの新規参加店舗や、「文化祭・農業祭」「成人のつどい」において、啓発物品として、オリジナルのコアラのマーチ（しろやまのマーチ）を配布



「文化祭・農業祭」

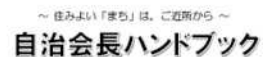


啓発物品

ここがポイント！

○「自治会長ハンドブック」

- 自治会長の年間スケジュールや業務内容を明らかにすることで、自治会長を引き受けることに対する不安の解消を図るとともに、新任自治会長であっても円滑な自治会運営が可能となる。
- 自治会長を交代する際の「引継ぎ資料」のほか、新任自治会長の「研修資料」として活用できる。



農協会は、川耕（地域のつながり）に基づく団体で、自然農の経験や交流にとどまらず、防災や防犯、交通安全、環境美化活動などの活動など、地域の安全・安心な暮らしを支えています。

城山地区連合自治会

事業実施による成果・効果

○ 自治会加入促進

- ・「加入案内パンフレット」により、自治会の役割や必要性、加入メリットなどをPRすることで、加入促進の取組が期待できる。

○ 高齢者等への対応

- ・「勉強会」において、新たな自治会支援策の内容を詳しく説明してもらったことで「高齢者等負担軽減促進支援金」の活用に繋がるとともに、各自治会が高齢者等への対応について考えるきっかけとなった。

次年度以降に向けて

- ・「自治会加入案内パンフレット」を活用した継続的な加入促進の取組の実施
- ・「自治会長ハンドブック」を活用した「新任自治会長研修会」の開催（予定）
- ・「宮PASS」を活用した地区独自の取組の実施（予定）

問い合わせ先

城山地区市民センター

電話 028-652-4794

国本地区（国本地区連合自治会）

自治会を知る・魅力を発信する事業

地域の課題と対応の方向性

- 生活スタイルの変化や価値観の多様化などにより、自治会に加入しない世帯や地域活動に参加しない世帯が増加し、コミュニティが希薄化している。
- ⇒ 地域住民に自治会を知ってもらい加入促進に取り組むとともに、地区内各自治会が地域課題を共通理解し課題解決に取り組んでいくことが必要である。

事業内容

1. デジタルサイネージ（電子看板）を活用した自治会等の魅力発信
(1) 内容
 - ・地区市民センターロビーにデジタルサイネージ（電子看板）を設置し、来場者に映像で自治会の活動PRや国本地区の魅力を発信した。
2. くにもと自治会役員研修の開催 ※ファシリテーターは岩井俊宗氏
(1)メンバー：自治会役員
(2)国本地区市民センター
(3) 内容
 - ①6月7日
 - ・自治会長の役割、自治会の仕事、市の補助制度の説明、連合会の仕事
 - ・自治会条例の説明、自分の自治会状況報告と意見交換
 - ②9月13日
 - ・国本地区の自治会の現状把握
 - ・今後の自治会連合会の取り組み⇒自治会を身近に感じてもらう取り組みとして自治会ロゴを作成することを決定
 - ③12月13日
 - ・キャッチコピーの決定、キャラクターの決定 ・今年度の振り返り
3. 国本地区小中学生に「自治会ロゴ入りクリアファイル」の配布
 - ・国本地区の全小中学校にキャラクターを決める際に投票をお願いしたことから、そのお礼と若い人へのPRをかねてクリアファイルを贈呈（3月5日）

自治会をもっと身近に

＼国本地区「自治会ロゴ」誕生！／



ここがポイント！

- ・今年度の自治会役員研修会で、自治会加入、活動への参加促進を図るための取組を検討している中で、まずは、自治会を身近に感じてもらえる取組が必要なのではないかと意見がまとまり、「国本らしさ」と「親しみやすさ」を基本に、新しい試みとして「自治会ロゴ」を作成することとなった。
- ・キャラクターの作成にあたっては、くにもとまつり（文化祭・農業祭）や国本地区の小中学生（１，２８２人）など合計２，２６３人に投票にいただくなど、作成段階から住民参加型で展開した。

事業実施による成果・効果

1. デジタルサイネージを活用し、窓口利用者や貸館、来所者に映像により自治会活動や地域活動団体の活動状況などを視覚によりわかりやすく発信できた。
2. 研修会を通じて自治会や地域課題等の把握や共通理解が図るとともに各自治会役員の連携や関連性を深めることができた。
3. 地域を巻き込みながら、自治会ロゴを作成できたことにより、住民への自治会や地域活動団体に対する親しみやすさや理解促進、郷土愛の醸成へのスタートを切ることができた。

次年度以降に向けて

- ・自治会ロゴのキャラクターの名前の募集や活用により、自治会や地域団体の活動を身近に感じ、より多くの地区住民が、地域活動の大切さを理解し、自治会加入やの地域活動に参加できるように取り組む。
- ・自治会役員研修を継続することで、自治会役員の顔の見える関係づくりを進めることで、地域一丸となって自治会の加入促進や課題解決に取り組む。

問い合わせ先

国本地区市民センター

電話 ０２８－６６５－２９４２

河内地区（河内地区連合自治会）

かわち自治会応援隊による，集団退会のあった自治会の再構築と新タイプ自治会づくり立上げ事業

地域の課題と対応の方向性

● 年々，若年層の自治会未加入者の増加や高齢者の退会に歯止めがかけられず，自治会加入率が低下傾向になっている。そのような中，集団退会があった自治会があり（自治会加入率 14.5%），再構築する必要がでてきた。また，河内地区内において，新規分譲住宅建設が開始予定であり，新たな自治会組織の立ち上げも必要となってくる。

そこで，令和6年度発足した「かわち自治会応援隊」の全面支援を受けて，地域の現状を把握しながら，自治会組織の再構築を促すとともに，若い世帯の入居者に合わせた自治会組織の構築を支援していく。

事業内容

1 自治会退会者の再加入促進事業

- ・ 宇都宮大学地域デザイン科学部の石井教授及び学生の協力を得て，過去に集団退会のあった自治会役員と連合自治会役員らが，自治会の現状や再構築に向けたポイントについて意見を交わした。
- ・ 自治会内に居住する若い母親や自治会役員，学生との意見交換会を開催
- ・ 今後の方針等について関係者による検討



2 若い方が望む新体系の自治会組織準備事業

- ・ 工場のあった跡地に住宅開発中の事業者と新規自治会立上げや近隣自治会の現状，開発の進捗状況などについて意見交換会を開催した。
- ・ 事業者から契約者へ自治会に関する説明協力を得ることができた。
- ・ 分譲地内に自治会加入促進ののぼり旗を設置するなどし，自治会への理解や関心向上を図った。



ここがポイント！

当地区連合自治会では、令和３年度より自治会加入促進事業を進め、若者の自治会に加入しない理由や高齢者等の自治会退会理由等を把握してきた。これらの経過を踏まえて、引き続き、加入促進・退会防止策の事業を進め、併せて、新規自治会の新体系自治会組織を創り上げることとして、令和６年度に発足した「かわち自治会応援隊」の支援を受け、事業に取り組んだ。

事業実施による成果・効果

- ・ 過去に集団退会のあった自治会について、単一自治会だけでなく、地域として現状共有や再構築に向けたポイントについて意見を交わすことで、今後の方針等について話し合いができた。
- ・ 開発中の分譲住宅地の新規自治会設立に向け、事業者と連携して継続した支援ができた。

次年度以降に向けて

- ・ 自治会加入促進・退会防止、新規自治会の立上げについては、単一自治会や事業者のみでは対応は困難なことも多いことから、今後も「かわち自治会応援隊」の支援を受けながら、関係者と連携・協力し、若い世代が抵抗なく自治会活動に参加できる魅力ある自治会づくりに取り組んでいく。

問い合わせ先

河内地区市民センター

電話 ０２８－６７１－３２０２

宮の原地区（宮の原地区連合自治会）

自治会の継続的な組織運営のための加入促進

地域の課題と対応の方向性

- 宮の原地区は市中心部に位置し、アパート・マンションの自治会加入者は極端に低い。自治会未加入者に宮の原地区のイベントに積極的に参加していただくよう、各々の事業案内と自治会の活動内容をポスティングで配布し、自治会を理解いただき、加入促進につなげる基盤を築いてきた。
- 各イベントが終了後、自治会加入を促進するため、自治会が行っている内容を詳しく載せたパンフレット『自治会に参加しよう！』を作成し、会員・非会員全戸数に配布し、令和8年度から加入促進を本格的にスタートさせる。

事業内容

- ・令和6年度に続き、宮の原地区自治会の意義や活動施策を盛り込んだチラシを作成し、地区のイベントの際、会員・非会員全戸数に配布した。
- ・令和7年7月26日（土）開催の『宮の原地区夏まつり』のチラシと併せ、自治会パンフレットを宮の原地区の会員・非会員全家庭に配布した。
- ・令和7年10月25日（土）開催の『宮の原地区防災訓練』の案内文を会員・非会員全家庭に配布し、宮PASSの効力を説明するブースを設けた。
- ・令和7年11月22日（土）開催の『宮の原地区文化祭』の案内文を宮の原小学校と宮の原地区連合自治会が協力して宮の原地区の皆さんに配布を行い、イベント案内を行った。
- ・令和7年度に『自治会に参加しよう！』パンフレットを作成し、自治会員全戸数と非会員全戸数に配布し、令和8年度から本格的に自治会の加入促進を開始する。

令和7年度
宮の原地区
夏まつりの
様子



ここがポイント！

・令和 6 年度、令和 7 年度は宮の原地区連合自治会並びに 16 自治会の活動を会員・非会員に詳しく説明し、非会員には色々なイベントや事業に積極的に参加していただき、自治会をご理解いただくことに徹した。

令和 7 年度
宮の原地区
輪投げ大会の様子



事業実施による成果・効果

・『宮の原地区夏まつり』会員・非会員問わず、参加者全員にお楽しみ抽選券（2 人に 1 人が当たる）を 1500 人にプレゼントした。来場者全員にプレゼントした（光る腕輪）に抽選番号を入れるなど、工夫を凝らした。

・宮 PASS 持参で一緒に来場した方全員に 100 円の商品券 1500 枚を差し上げ、会場に出店しているお店で使えるようにした。（宮 PASS は自治会員だけが利用できるものだが、抽選券ブースから宮 PASS ブースの順にしたため、抽選券ブースで会員と一緒に来た非会員のご家族も全員 100 円の商品券を利用していただくことができた。）

- ・『宮の原地区防災訓練』
会員・非会員問わず、参加できるようにした。
万一の災害に地域一体で対応できるような、足がかりとなった。



次年度以降に向けて

・令和 8 年度からは本格的に自治会の加入促進を開始するにあたり、令和 7 年度に『自治会に参加しよう！』パンフレットを作成した。このパンフレットをもとに引き続き加入促進活動に取り組む。

陽東地区（陽東地区連合自治会）

地区創立 50 周年を契機とした自治会活動の周知・加入促進事業

地域の課題と対応の方向性

- 陽東地区は、LRT の運行や様々な生活サービス施設の立地等魅力ある地域だが、少子高齢化や価値観の多様化等を背景に自治会加入世帯の減少傾向が続いており、自治会活動に対する住民の理解を促し、一層の加入促進を図っていく必要がある。
⇒ 地区創立 50 周年記念事業の開催と記念紙の発行を通じて、特に若い世代の自治会活動に対する理解を深め、自治会加入促進を図る。

事業内容

・ 50 周年記念紙の発行

陽東地区連合自治会の創立 50 周年記念紙を発行し、地域住民の自治会活動に対する一層の理解促進を図り、自治会活動の活性化につなげる。

・ 記念演奏会の開催



陽東地区まちづくり協議会が主催した「ようとう 50 祭（さい）」において、陽東地区連合自治会の協賛事業として吹奏楽団 Mercury Band による記念演奏会を開催。



・ 宮 PASS 活用促進事業

ようとう 50 祭（さい）の会場に「宮 PASS」ブースを設置し、来場者に宮 PASS や自治会活動に関する資料を配付するとともに、宮 PASS 提示者（100 名抽選）に記念品引換券をプレゼント（記念演奏会終了後に「キューブ米」と引き換え）。

— 10月26日(日)午前10時～午後2時 —

○宮 PASS（みやぱす）

- ・宮 PASS は自治会に加入している世帯に 1 枚ずつ、宇都宮市自治会連合会から発行されます。
- ・年度の宮 PASS の有効期間は令和 6 年 5 月～令和 7 年 4 月です。有効期限がこれより古いものは（令和 3 年 5 月～令和 6 年 4 月）は期限切れで使えません。
- ・陽東地区に新たに転居された方など、まだ宮 PASS の発行を受けていない方は、自治会長に連絡して発行申請してください。



〈ようとう 50 祭 宮 PASS コーナー〉 ※受付開始時間 10 時

宮 PASS の黄色いのぼりのある受付で、お名前と自治会名を受付用紙に記入し、宮 PASS を提示していただいた方に、おいしいスイーツ（焼き菓子）を差し上げます（200 名様）。さらに、受付の抽選で 100 名様に、陽東小学校体育館での記念演奏会終了後に体育館で特選半ポト（秋の収穫です！）を譲ります。記念演奏会は午後 1 時 30 分～2 時の予定です。



ここがポイント！

50周年記念紙の制作・発行により、自治会活動に対する地域住民の一層の理解促進につなげる。また、イベント会場において、自治会加入促進パンフレット（令和5年度作成）を配布するとともに、宮 PASS 活用促進事業を通じて来場者に自治会加入のメリットをアピールし、未加入者の加入促進を図った。

事業実施による成果・効果

「ようとう50祭（さい）」開催当日はあいにく朝から雨模様となったため、急遽、屋外で予定していたイベントの会場を体育館内へ変更するなどの対応に追われたが、幸い、子育て家庭を中心に多くの来場者でにぎわい、若い世代に自治会活動の意義やメリットをアピールすることができた。

次年度以降に向けて

次年度以降も、地区内で開催されるイベント等において何らかの形で宮 PASS を活用した事業を継続して実施することにより、自治会活動の周知と未加入者の加入促進に努めていく。

今回作成した「50周年記念紙」と令和5年度に作成した「自治会加入促進パンフレット」を有効に活用して、自治会未加入者の加入促進に努めていく。

問い合わせ先

宇都宮市東市民活動センター

電話 028-638-5784

今泉地区（今泉地区連合自治会）

「ボッチャと輪投げで健康アップ・交流アップの ダブルアップ！」事業

地域の課題と対応の方向性

- 独居老人の増加や自治会の退会が昨今の課題
⇒ 高齢者の交流の場の創出や、自治会の加入促進と退会防止を図るため、自治会加入の有無に関わらず、地域の住民に広く参加を呼びかけ、スポーツ大会（ボッチャ、輪投げ）大会を開催することにより、自治会活動への理解を深める。

事業内容

【日時】

- ・ 令和8年3月5日（木） 9:45 集合, 10:00 開始

【場所】

- ・ ブレックスアリーナ宇都宮 サブコート

【周知方法】

- ・ 自治会、シルバークラブ、体協、社協、PTA 等の協力を得て、地域住民に回覧・口コミ周知を実施。
- ・ 地域のホームページへの掲載や PTA さくら連絡網により参加を呼びかけ。

【実施内容】

- ・ 種目別自治会対抗（自治会未加入者は住所により所属自治会を決定）とする。
- ・ 輪投げは、個人点数による優勝者を決定
- ・ コートを2分し、一方でボッチャを2面、もう一方で輪投げ3面設置
- ・ 種目ごとに個人優勝を決定

【参加状況】

- ・ 今泉東自治会 10 人
- ・ 今泉北自治会 11 人
- ・ 今泉南自治会 12 人
- ・ 宿郷東自治会 8 人
- ・ 宿郷西自治会 9 人
- ・ 審判（2種目） 10 人
- 合計 60 人



ここがポイント！

- ・ 老若男女が気軽に楽しく参加できるスポーツを地域コミセンが核となって広めることで、交流の場から親睦の輪が広がり、自治会未加入者が加入へと意識を変化させるきっかけをつくったこと。
- ・ 自治会加入者は、自治会退会の意向を低下させるよう、地域の繋がり場を設ける場としたこと。
- ・ 自治会だけでなくシルバークラブやホームページ、PTA さくら連絡網などにより周知することで、自治会に入っていない方へも情報が届くようにしたこと。
- ・ 自治会対抗とすることにより、地域の顔見知りを作ることで活動のきっかけとなる活動環境を整えたこと。

事業実施による成果・効果

- ・ 体協・シルバー連絡協議会・福祉協力員・コミュニティセンターの役職員が審判として大会開催に協力したことにより、地域の絆を確認することができた。
- ・ 自治会未加入者の参加もあり、この事業での交流をきっかけに各種事業への参加に興味を示されたため、加入につながるよう働きかけている。
- ・ 今泉地区の行事として継続して実施することで地域住民が輝くまちにする。

次年度以降に向けて

- ・ ボッチャや輪投げの道具の貸し出しを行い、各自治会で健康増進と交流の輪を広め、自治会活動のPRに努めていく。
- ・ 年に1回程度自治会対抗大会を開催し、交流による加入促進を継続していく。
- ・ 使用した用具を単位自治会に配置し、単位自治会（老人会・サロン・子ども会等）で実施するイベントで利用活用して親睦を深める活動を実施する。
- ・ 今泉地区の行事として継続実施し、地域住民が輝くまち今泉地区にする。



問い合わせ先

東市民活動センター

電話 028-638-5784

陽南地区（陽南地区連合自治会）

あいさつ・声掛け運動によるコミュニケーションづくり
～あいさつは、いつでも、どこでも、だれにでも～

地域の課題と対応の方向性

少子、超高齢化の進行など社会情勢の変化に伴い、地域社会との関係の希薄化や自治会への帰属意識の低下が深刻な問題となっている。

⇒ こうした問題の解決には、人と人とのつながりを再構築し、「自分ごと」として関わってもらふ取組みが必要であると考えていることから、まずは、地域において、子どもから高齢者まで誰もが気軽に声を掛け合う「あいさつ・声掛け運動」に取り組んでいく。

事業内容

1 「あいさつ・声掛け運動」の実施

- ・交通安全・防犯ネットワーク立哨時に旗を掲げて活動する。
- ・地区内でのイベント（敬老会、陽南ふれあいまつり）でも旗の掲示及びあいさつ運動についてのPRや実践を行う。
- ・広報誌や回覧板等を活用し、旗をシンボルとし「あいさつ」の効果や地区内の取組みについて広報する。

陽南は愉快な字都宮

みんなであいさつ 明るいまちづくり

陽南地区では地域の連携を高めるため、大人も子どもも互いに声をかける「あいさつ運動」を推進します。みんなで積極的な声かけあって、陽南地域を盛り上げましょう！

あいさつすると、自然と会話が生まれ

①地域の情報が共有されます
②不審者などが地域に入りづらくなります
③街が活性化され、みんなが住みよい街になります

自分たちが暮らす街、自分たちの手で豊かにしましょう。

元気なあいさつチャレンジDAY！

10月18日（日）ふれあいまつりにて陽南ふれあいまつりに参加する方へプレゼントとして「あいさつ運動」を応援します。

陽南地区連合自治会
陽南地区支入会・陽南地区
陽南地区大町1-15-15
陽南地区コミュニティセンター内
TEL/FAX 028-488-8271

陽南ふれあいまつり

日時 10月18日（土）10:00～13:00
場所 陽南小学校校庭
陽南地域コミュニティセンター

“宮PASS”もって
ふれあいまつりに行こう！

宮PASSブースにて、当日会場で見える！
宮PASSを提示いただいた方に、一緒に来たご家族分の100円券を配布します！（枚数に制限があります。）

当日プログラム
10:00 開会
～模擬店販売開始～
～ガラガラ抽選会～ 空くじなし
地元企業・商店協賛！
11:00 宇都宮プレックス
ブレイキーがやってくる！
13:00 閉会

模擬店
焼きそば、赤飯、いなり寿司
おにぎり、フランクフルト
いもフライ、飲み物、かき氷
野菜、手作り小物など
わなげ、ミニSLも
あります！

陽南地区連合自治会 お問合せ先 陽南コミセン ☎658-8271

2 「のぼり旗」の作成

- ・あいさつ・声掛け運動を推進するとともに、自治会の活動をPRするため、活動の象徴となる「のぼり旗」を作成した。

3 「のぼり旗」の掲出依頼 ⇒ 「みかける」の演出

- ・地区全体で「あいさつ・声掛け運動」に取り組んでいることをPRするため、地区内の公共施設をはじめ、商業施設などに掲出を依頼した。



ここがポイント！

- ・シンボルとなるのぼり旗を作成し、活動を「見える化」したこと
- ・交通安全・防犯ネットワーク立哨時だけでなく、地域の方々が参加するイベント等や広報紙で広く、あいさつ・声掛け運動をPRしていること
- ・地域店舗の協力を得て掲示場所を広げることで、地域ぐるみの活動につながること

事業実施による成果・効果

- ・令和7年9月14日(日)敬老会式典入口で、PR活動を実施した。



- ・令和7年10月18日(土) 陽南ふれあいまつりにて「元気なあいさつチャレンジ DAY♥」として「あいさつマン」による声かけを実施した。プレゼント企画を通して、子どもが積極的に挨拶できる環境を整えたことで、会場全体に明るい挨拶の輪が広がった。



宮パスコーナーも設置

次年度以降に向けて

- ・あいさつ運動は、継続することで浸透し、その効果も上がることから引き続き継続して実施する。
- ・のぼり旗の掲示も各自治会を中心に継続して掲示をお願いし、地域の方々に自治会活動が目立つようPRしていく。

問い合わせ先

南市民活動センター

電話 028-659-9953

細谷・上戸祭地区（細谷・上戸祭地区自治会連合会）

自治会加入促進・新規情報提供事業

地域の課題と対応の方向性

- 地区内の各地で依然として宅地開発が行われており、転入者に対する自治会への新規加入を促す必要がある。
- 既存会員においても、細谷・上戸祭地区のみならず単位自治会に対する帰属意識が強いとはいえない。
⇒ 新規加入促進および既存会員に対する活動周知のためのパンフレットを制作する。また、宮 PASS 活用により自治会加入メリットの周知啓発を行う。
- 従来からの回覧板では特に若い世代に対する情報提供に限界がある。
⇒ LINE 公式アカウントを開設し情報提供に活用することにより、地区連合会の発信力を強化し、自治会活動へのさらなる参加を促す。

事業内容

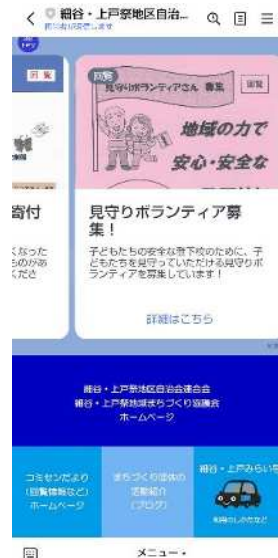
- ・ 自治会加入促進パンフレットを制作し、会員世帯に全戸配付した。残部数を、今後の宅地開発時等における加入促進活動に活用する。



- ・ 宮 PASS キャンペーンを大学文化祭および北生涯学習センター文化祭で実施し、自治会加入メリットを訴求した。



- ・ LINE 公式アカウントを開設し、回覧情報や地区自治会連合会からのお知らせを月 1～2 回程度配信することにより、これまでとは違う新しい形での情報提供を行うことができた。



ここがポイント！

- ・ 転入者への自治会加入促進だけでなく、単位自治会や地区自治会連合会への既存会員の帰属意識を高めることも目的とし、地域の概要を示すマップと、自治会活動の内容と意義を周知するパンフレットとした。
- ・ イベントでの宮 PASS キャンペーン実施により、自治会活動を PR できた。
- ・ LINE 公式アカウントを開設することで、「新しいことに取り組む」自治会連合会の姿をアピールできたと考える。

事業実施による成果・効果

- 今回制作したパンフレットにより、集合住宅建設時や宅地開発時に不動産業者を通じて転入者に自治会加入を促すためのツールが得られた。また、既存会員へも配布することにより、単位自治会および地区自治会連合会に関する理解促進と自治会退会防止につなげることができたと考える。
- 生涯学習センター文化祭および大学祭における宮 PASS キャンペーンにより、大学生や若い家族に対して自治会活動を PR し自治会加入メリットを訴求することができた。
- LINE 公式アカウントを活用することにより、従来からの回覧板ではリーチできなかった層へも情報を提供し、自治会活動への理解と参加を促すことができた。
 - ・ アカウント開設を回覧、広報紙、コミセン掲示、イベント、コミセンスマホ講座等さまざまな経路で PR したことにより、友だち登録数は 2026 年 1 月末現在で 438、ブロック数（12）を差し引いたターゲットリーチ数は 424 となった。
 - ・ 開封率が概ね 80%を超えていることから、回覧や地域のお知らせを 300 人以上に届けることができていると考えられる。
 - ・ LINE 公式アカウントと自治会連合会ブログを連動させることにより、自治会連合会ブログへの訪問者数も増加しており、自治会活動の広報効果が認められた。

次年度以降に向けて

- ・ 今回制作した加入促進パンフレットは複数年度利用可能な内容であるので、必要に応じて増刷し、宅地開発等の場面で活用していく。
- ・ LINE 公式アカウントを引き続きさまざまな機会でも PR することにより登録を促し、特に若い世代への自治会活動の広報に努めていく。

問い合わせ先

北市民活動センター

電話 028-621-7745

宝木地区（宝木地区自治会連合会）

笑いで心豊かに楽しめる地域の輪づくり

地域の課題と対応の方向性

当地区では、自治会員同士の交流促進や地区の発展に向け様々な活動に取り組んでいるが、高齢化が進み、自治会脱会や加入しない方が増加している。

こうした中で、加入未加入を問わずポスター、チラシを見て参加できる落語会を開催し、誰でも気軽に楽しい時間を過ごしてもらい脱会防止や加入促進につなげたい。

事業内容

宝木地区で笑いのひととき「宝木落語会」

日 時	令和8年2月22日（日）午後2時から	1時間30分
会 場	コンセーレ アイリスホール	
内 容	落語会の開催	
人 数	80名	
講 師	宇都宮落語研究会	3名
演 目	「高砂や」「蒟蒻問答」「猫の災難」	
	昔の長屋くらしや近所づきあいの中の「助け合い（共助）」が題材	



ここがポイント！

- ・自治会未加入者にも周知するため、自治会回覧だけではなく、地区内の自治会掲示板にポスターを掲示した。
- ・落語会は初めての開催だったが、自治会に加入未加入を問わず参加していただいた。地区での催しに参加したことをきっかけに、自治会活動に興味を持ってもらい、自治会脱退の防止につなげていく。

事業実施による成果・効果

- ・今回、事前申し込みを受けずに実施したため、参加人数が予測できなかったが、定員１００名のところ８０名の来場があり、事業としては盛況であった。
- ・自治会未加入の方にも、地域での催しに関心を持ってもらえたのではないかと感じた。
- ・高齢者も気軽に参加し楽しむことができ、近所同士で誘い合いながら外出するきっかけにもなったことから、楽しみと交流する場を提供することができた。
- ・自治会の活動に興味・関心を持ってもらうことにより、自治会からの脱会防止や加入促進を図ることができる。

次年度以降に向けて

- ・予想していた以上に多くの方に来ていただき、参加者からよかったとの感想もあったことから、自治会員だけではなく、未加入者も気軽に参加できる事業として、次年度の開催も視野に入れたい。
- ・開催の際には、自治会活動の周知を図り、自治会情報の共有なども進めて行き、自治会活動への理解を少しずつでも深めていくようにしていきたい。
- ・アンケートを実施して、より充実した事業に発展させていく。

問い合わせ先

北市民活動センター
電話 ０２８－６２２－７０９３

**地域防災力
の向上**

雀宮地区（雀宮地区自治会連合会）

地域防災力向上のための自治会活動

地域の課題と対応の方向性

- 当地区は、田川を始めいくつもの河川が流れており、浸水想定区域や内水氾濫想定区域が広く指定されている。また、田川を越えて優先避難所に避難することが難しいなどの問題がある。
 - ⇒ 災害時に、住民が安心して行動できる環境を整えることが重要であり、そのためには、「正確な情報の収集と共有」、「支援体制の整備」、「防災教育」を講じる必要がある。

事業内容

■正確な情報の収集と共有

冊子「雀宮地区防災計画作成の手引き」の作成・配付

- ・ 防災計画の必要性や考え方、地区の過去の災害や今後想定される災害、防災活動体制等知ってもらう。
- ・ 単位自治会に対し「防災マップの作成」を促す。

⇒ 自治会等に配布



冊子「田川の流れとともに」の作成・配付

- ・ 田川の洪水の歴史などを紹介し、河川による災害を知ってもらう。
- ・ また、河川周辺の歴史も併せて紹介し、地域への愛着を持ってもらう。

⇒ 防災会や自治会等に配布、地区開催の講座等で活用



■支援体制の整備

地域防災計画の見直し

- ・ 地域団体改編を踏まえ、現行の「地区防災会組織」や「任務分担表」を見直し

⇒ 全自治会員に周知



地区防災訓練の実施

- ・ 日 時 令和8年3月8日（日）
- ・ 場 所 雀宮地区市民センター
- ・ 参加者 自治会長・会員，中学生，自衛隊 OB，
女性防火クラブなど約280人

⇒ 地区防災計画に基づく体制を基に，
救出・救護訓練や初期消火訓練などを実施



■防災教育の実施

災害図上訓練「DIG訓練」の実施

- ・ 日 時 令和8年3月5日（木）
- ・ 講 師 栃木県防災士
- ・ 参加者 自治会長など13名
- ・ 内 容 防災に関する講話

DIG訓練（地図を用いて災害時のリスクを可視化し防災意識を高めるとともに，災害時の避難経路や対応策を議論）



ここがポイント！

- ・ 「災害はいつでも起こりうるもの」であることから，仕事などで活動に参加できない会員にも周知するため，冊子を作成・配布した。
- ・ 冊子には地域の歴史も取り入れ，読む人が興味や関心を持てる内容にした。
- ・ 「防災計画の見直し」や「手引き」を踏まえ，実際の災害を想定した「DIG訓練」や「防災訓練」を体験させた。

事業実施による成果・効果

- ・ 災害時に何をすべきかを冊子で分かりやすく示し、いざという時に自治会等が迅速に行動できるようにした。
- ・ また、過去の災害の事例から、「災害はいつでも起こりうるもの」と理解させ、防災意識を高めることで、自治会の脱会防止や加入促進の意識向上につなげた。
- ・ D I G訓練や防災訓練の実施、タイムラインの作成を通じて、自治会員等の防災意識と行動を促し、自治会の加入促進の意識向上につなげた。

次年度以降に向けて

- ・ 本取組を継続し、地域住民一人ひとりの防災意識と行動を促し、自治会の脱会防止及び加入促進につなげていく。

問い合わせ先

雀宮地区市民センター

電話 028-654-1013

上河内地区（上河内地区自治会連合会）

地域防災力の向上に向けた体制整備

地域の課題と対応の方向性

- 当地区では、令和3年度に防災業務に携わる関係者全員に「防災計画・防災マニュアル」を配布し、これをもとに防災研修と訓練を実施した。

さらに、令和4年度には「マイタイムライン」を、令和5年度には「防災避難指針」を作成・配布し、災害時に自らの命を守る避難行動を周知してきたところである。

現在、浸水区域や土砂災害警戒区域が多数指定されている当地区においては、災害時に集落が孤立する可能性のある地区公民館への、防災備蓄品の整備・拡充が急務となっている。

そこで「防災備蓄保管庫」を整備し、非常時における避難者の安全・安心を図る。

事業内容

- ★ 上河内地区では、避難所である地区市民センター等への避難には、道路の損壊、橋の落下、がけ崩れなどに加えて、遠距離や高齢化等により困難が想定されることから、一時避難所である地区公民館に避難することを想定し、令和6年度より、備蓄保管庫を整備した。

1 整備公民館

【令和7年度】

- ・西部地区：今里公民館（土砂災害警戒区域あり）
金田公民館（土砂災害警戒区域あり）
高松公民館（土砂災害警戒区域あり）

※参考【令和6年度】

- ・東部地区：西芦沼公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり）
- ・西部地区：小室公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり）
謡辻公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり、孤立の恐れ）

2 備蓄整備品

- ・毛布
- ・簡易トイレ（個人用トイレテント、トイレ凝固剤セット）
- ・水（飲料水）

3 今後の課題

- ・備蓄品の拡充 ・単位自治会による防災訓練等の実施

4 その他

- ・災害時に係る勉強会等の開催

- ①研修会 令和 7 年 6 月 30 日(日)防災会総会に合わせた研修会の開催
防災会役員, 自治会長や災害対策隊員等の参加でマニュアル等の確認
- ②防災訓練 令和 7 年 12 月 7 日(日)開催
東小学校区内の各自治会長, 災害対策隊員等による各種訓練の実施

ここがポイント！

上河内地区において, 令和 3 年度の防災関係者による「防災マニュアル」等の整理に続き, 令和 4 年度には各家庭における防災行動として「マイタイムライン」を活用, そして令和 5 年度に自らの命を守る「防災避難指針」の作成・配布により, 上河内地区の防災意識の醸成を継続的に実施してきた。

令和 6 年度及び令和 7 年度は, 孤立等の恐れがあり, 一時避難所となる地区公民館に備蓄保管庫を整備し, 毛布や水などの防災備蓄品を収納し緊急時の対応を図った。

事業実施による成果・効果

これまでの取り組みにより, 個々の住民が防災の自助力を高めてきた。また, 自治会の防災訓練等においても防災意識の向上が図れてきた。

今回, 孤立等により一時避難所となる公民館に備蓄品を保管することで, 地域住民の安全・安心の向上が図れた。

次年度以降に向けて

上河内地区は地勢上, 災害警戒区域等が多く存在することから, 今回の備蓄品の整備を契機に地区の訓練等を促し, 引き続き他の危険地区の公民館にも拡充して地域の安全・安心を図っていく。

問い合わせ先

上河内地区市民センター

電話 028-674-3131

五代若松原地区（五代若松原地区連合自治会）

みんなで歩いて「安心安全お楽しみ MAP」を作る事業

地域の課題と対応の方向性

● 以前 5 自治会であった連合会が、現在は 7 自治会となり平地林も造成されて住宅地になるなど、以前作製した安全 MAP が現状と異なる情報となっている。

⇒ 7 自治会の会長と事務局員が実行委員となって、最新情報を盛り込んだ安心安全 MAP を作製し、全世帯に配布する。

事業内容

マップの作製に当たっては、各自治会単位で、会長を中心として役員や育成会（親子）のメンバーが自治会内を徒歩で探索、危険箇所や避難所となる公園、病院等をチェックした。



地域避難所である若松原中学校の生徒にスタッフに加わってもらい、地域安全に関する意識の共有を図ることとした。



ここがポイント！

- ・マップ製作に多くの人に関わったことで、災害時の対応への意識が地域全体に広まった。
- ・自治会役員や親子連れが、地区内を実際に歩いて探索したこと。
- ⇒ 危険箇所や新たにできた住宅地・公園など普段気付かないような個所に、新たな気づきがあった。
- ⇒ 子どもも主体的に関わることで、地域への関心と見守り意識が高まった。
- ⇒ 親子での参加により、防災・防犯への理解が深まり、地域の強化にもつながった。
- ⇒ 参加者からはいざという時の避難等の判断材料となったという声があった。

事業実施による成果・効果

- ・自治会の危険箇所を大勢の人がチェックして歩く姿は、地域への思いをアピールすることとなり、自治会員や自治会に入っていない人達に良い影響を与える事業となった。
- ・地域内の若松原中学校生徒と情報共有を図ったことにより、大人が気付かないような危険箇所等をマップに反映させることができた。
- ・宇自連研修で体験した「おぢや震災ミュージアム」にコンタクトを取って、貴重な被災体験者の格言等を掲載することができた。



次年度以降に向けて

- ・今回作製したマップは、地域内の自治会員全戸に配布するが、自治会毎にマスターマップを置いて状況の変化を記録し、次回のマップ作成の参考に資する。
- ・自治会内の飲食店や病院待合室等に掲示をお願いして、未加入者も含めた地域住民にマップの存在と自治会のメリットをアピールする。

問い合わせ先

南市民活動センター

電話 028-659-9953



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA

【問い合わせ先】

宇都宮市 市民まちづくり部 みんなでまちづくり課

電話 028-632-2886

宇都宮市自治会連合会事務局

電話 028-632-2289